

第3回藤沢市地域経営戦略100人委員会

と き 2009年(平成21年)11月1日(日)
午後1時30分～4時
ところ 明治公民館

次 第

- 1 開会
- 2 新総合計画策定の審議の状況について
- 3 100人委員会の役割(第2段階:基本計画編)について
- 4 「ふじさわ未来課題」の収集と分析について
- 5 宿題と話し合い

事務局
藤沢市経営企画部経営企画課
電 話 (0466) 50-3502
ファクス (0466) 50-8402
e-mail kikaku@city.fujisawa.kanagawa.jp

新総合計画の構造と基本構想策定のプロセス

I	新総合計画の構造	— p 2
II	基本構想策定のプロセス	— p 8
III	議論整理のツール	— p 17

2009年（平成21年）11月1日

経営企画部経営企画課



I 新総合計画の構造

- 1 新総合計画の構造
 - 1-1 新総合計画の構造 — p 3
 - 1-2 新総合計画づくりのふじさわモデル — p 4

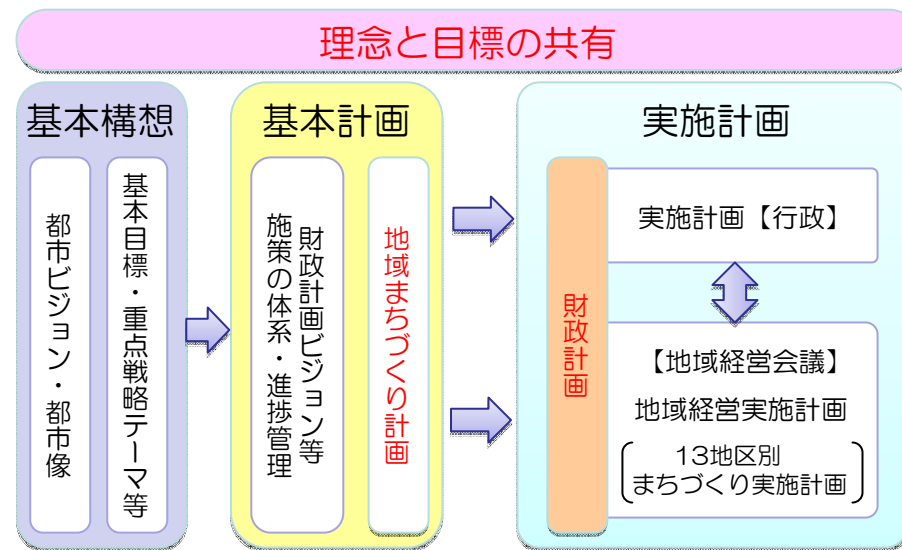
- 2 基本構想・基本計画・実施計画の役割
 - 2-1 基本構想の役割 — p 5
 - 2-2 基本計画の役割 — p 6
 - 2-3 実施計画の役割 — p 7



①基本構想	<h3>未来へ向けた“構想”</h3> <ul style="list-style-type: none">・方向性を示すもの。「未来の藤沢らしさ」の“構想（＝見通し）”・2011年度～2030年度（20年間）を見通す。・より具体的に取り組むことを検討する「基本計画」「実施計画」の方向性を示す。
②基本計画	<h3>“基本（＝土台・基盤）”となる計画</h3> <ul style="list-style-type: none">・基本構想と実施計画をつなぐもの<ul style="list-style-type: none">－ “基本構想”を念頭においたときの、具体的な「課題」を扱うための“計画”－ “実施”をする際の“基本（＝土台・基盤）”となる計画・地域まちづくり計画（地域ごとの課題や指標・方向性等）・政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理等」の方針を示す。・基本計画と実施計画をつなぐ中長期財政計画ビジョンの方針を示す。・12年間（3年ごとのローリング）を想定。
③実施計画	<h3>“実施”するための計画</h3> <ul style="list-style-type: none">・“基本計画”を達成するための“実施”の計画<ol style="list-style-type: none">① 市域全体の実施計画② 地域経営実施計画（13地区別のまちづくり実施計画）③ 短期財政計画（3年）・3年間の計画（1年ごとの事業と財政計画の見直し）＝社会状況の急激な変化等への対応

ふじさわモデル

- 試行錯誤の実践を促すためのもの
- 市民生活や課題の現状を常に確認しながら、行政も地域も試行錯誤をする（＝地域経営をするための計画）
- 地域経営・市民主体のまちづくりのツール（役割）



①基本構想の役割

未来へ向けた“構想”

- ・方向性を示すもの。「未来の藤沢らしさ」の“構想（＝見通し）”
- ・2011年度～2030年度（20年間）を見通す。
- ・より具体的に取り組むことを検討する「基本計画」「実施計画」の方向性を示す。

ポイント

- ★「藤沢らしさ（現在、未来）」「藤沢全体の強み・弱み（現在、未来）」「**地区ごとの実感**」などから考えるもの。特に、未来を見据えること、未来から考えることが大切。
 - ★できるだけ鮮度が良い、幅の広い素材（観点）をたくさん出すことが必要。
 - 100人委員会からは：（全市的な観点も念頭に）**地域・生活の実感**に基づく素材を提供
 - 地域経営会議からは：**地区ごとの課題や実感**にもとづく素材を提供
 - 市役所（わいわい・がやがや・わくわく会議）での検討からは：いま取り組んでいる**活動の実感**から素材を提供
 - 市役所の庁内新総合計画検討会議からは：**将来予測に基づく課題抽出**の素材を提供
- ⇒ 総合計画審議会が**幅広く、新鮮な素材**を集めて、**切れ味よくまとめていき**、さらに関係者協働で**磨き上げる**

②基本計画の役割

“基本（＝土台・基盤）”となる計画

- ・基本構想と実施計画をつなぐもの
 - “基本構想”を念頭においたときの、具体的な「課題」を扱うための“計画”
 - “実施”をする際の“基本（＝土台・基盤）”となる計画
- ・地域まちづくり計画（地域ごとの課題や指標・方向性等）
- ・政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理等」の方針を示す。
- ・基本計画と実施計画をつなぐ中長期財政計画ビジョンの方針を示す。
- ・12年間（3年ごとのローリング）を想定。

ポイント

- ★ 未来像を実現するための「**課題（＝改善すること&伸ばすこと）**」を様々な立場から徹底的に**洗い出す**
- ★ 政策・施策の**重点化**と目標の設定のために**メリハリ**ある形で整理する
- ★ 「課題」の**現状を評価できるようにする（＝指標づくりを行う）**
 - ⇒ 計画（Plan）は、実施（Do）→評価（Check）→改善（Action）→計画→…の持続的なサイクルにつなげるもの。基本計画の段階から評価と改善ができるように設計する。
 - ⇒ 「指標づくり」＝**共通の目標**を持つことで、様々な主体が**地域協働で評価**できるようにする。
- ★ 各地域の特徴を反映した「**地域まちづくり計画**」を位置づける
 - ⇒ 地域ごとにも「課題」や「指標」の特徴を検討する
- ★ 政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理」システムを位置づける。
- ★ 基本計画と実施計画の関連性をはかるための、中長期財政計画ビジョンを位置づける。

③実施計画の役割

“実施”するための計画

- ・ “基本計画”を達成するための“実施”の計画
 - ① 市域全体の実施計画
 - ② 地域経営実施計画（13地区別のまちづくり実施計画）
 - ③ 短期財政計画（3年）
- ・ 3年間の計画（1年ごとの事業と財政計画の見直し）＝社会状況の急激な変化等への対応

ポイント

- ★ **基本計画を実現**するための実施計画をつくる。
 - ① 市域全体の実施計画
 - ② 地域経営実施計画：13地区別のまちづくり実施計画
- ★ 「課題」の解決に向けて、**全市と地域・テーマの相乗効果**を促すことも大切。
 - 相互に学びあう工夫、全市的な相乗効果を出す工夫、魅力を発掘して伸ばしていく工夫など
- ★ 短期財政計画（3年）を位置づけ、基本計画と実施計画の連携をはかる。社会経済状況の変化に迅速に対応する視点から、1年ごとに事業と財政計画を見直す。

Ⅱ 基本構想策定のプロセス

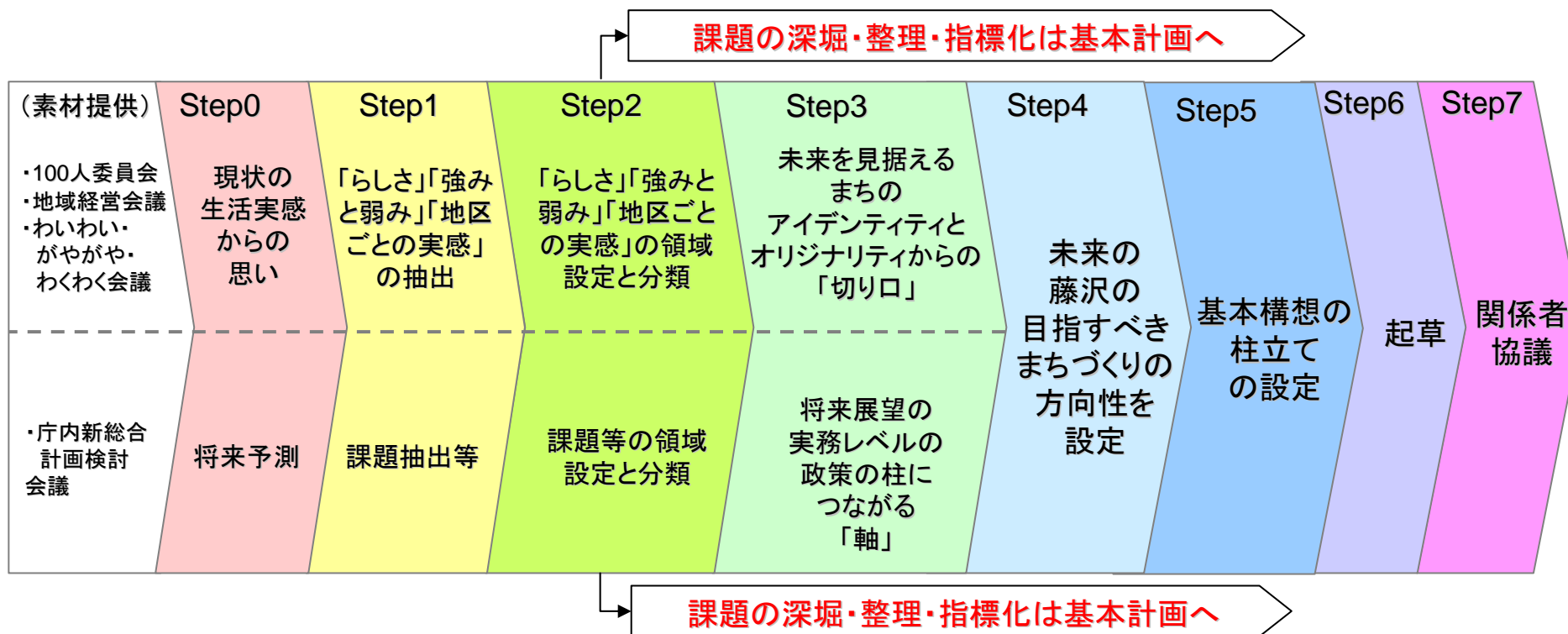
- 1 基本構想策定のプロセス
 - 1-1 基本構想策定のプロセス — p 9

- 2 各ステップの活動
 - 2-1 「課題」と「らしさ」「強み・弱み」 — p 10
「地区ごとの実感」の抽出（Step0～Step1）
 - 2-2 「らしさ」と「課題」の領域設定と分類 — p 11
（Step2）
 - 2-3 基本構想の「切り口」と「軸」の設定 — p 12
（Step3）
 - 2-4 藤沢が目指す「まちづくりの方向性」 — p 13
の設定（Step4）
 - 2-5 基本構想の構成・柱立ての検討（Step5） — p 14
 - 2-6 基本構想の「起草」（Step6） — p 15
 - 2-7 関係者との協議（Step7） — p 16



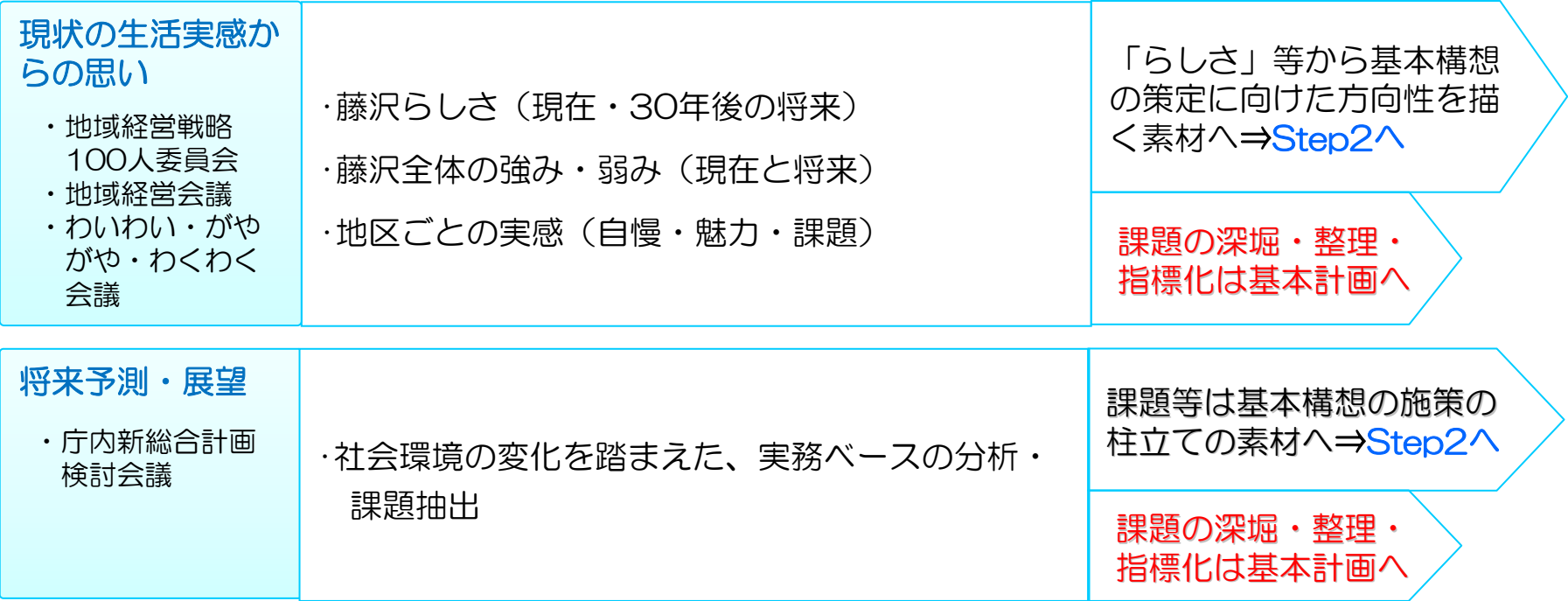
- ▶ 「現状の生活実感からの思いと将来予測」から、起草までをStep0～7の8ステップに区分し、総合計画審議会が幅広く新鮮な素材を集めて、切れ味よく「基本構想案」をまとめる。
- ▶ 地域経営戦略100人委員会、市民1000人討論などの関係者と協働で構想を磨き上げる。

▶ 基本構想策定のプロセス



[Step0～Step1]

- 現状と将来予測に基づき、「現状の生活実感」の思いからは「藤沢らしさ（現在・30年後の将来）」
「藤沢全体の強み・弱み」「地域ごとの実感（自慢・魅力・課題）」を読み解く（定性的分析課題）
- 「将来の予測」からは、実務者の視点から、社会環境の変化から生じる課題を読み解く
（定量的分析課題）



[Step2]

- ▶ 生活実感にもとづく「藤沢らしさ（現在・30年後の将来）」「藤沢全体の強み・弱み」「地域ごとの実感（自慢・魅力・課題）」と実務視点からの「将来予測からを読み解く課題」から抽出された「新鮮な素材」を、領域設定を行い、分類する。
- ▶ 領域ごとに分類され「収束された素材」から、20年後、30年後を見通し、基本構想の方向性のヒント、イメージを読み解いていく。

定性的分析課題

- ・ 藤沢らしさ
- ・ 藤沢の強み・弱み
- ・ 地域ごとの実感

- ①都市力と魅力 ②次世代への継承
- ③生活実感・課題 ④30年後の未来

基本構想の策定に向けた未来。将来の見通しへ
⇒Step3へ

- ⑤地域の魅力 ⑥地域経営

地域別まちづくり計画へ
(基本計画)

定量的分析課題

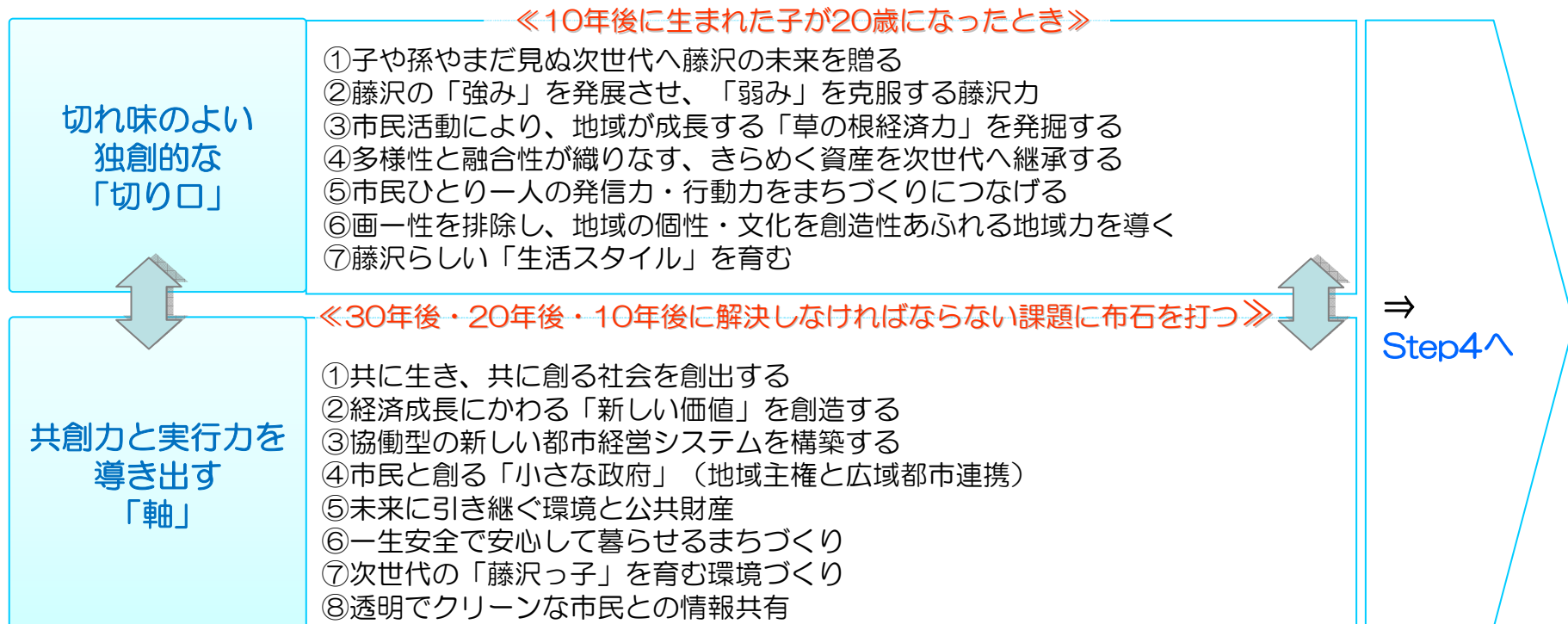
- ・ 市内新総合計画
検討会議

- ⑦子育て ⑧教育 ⑨安全・安心
- ⑩健康・福祉・医療 ⑪環境 ⑫産業
- ⑬都市基盤 ⑭芸術・文化
- ⑮共生と協働 ⑯地域主権と広域連携
- ⑰都市経営

基本構想の施策の方向性へ
⇒Step3へ

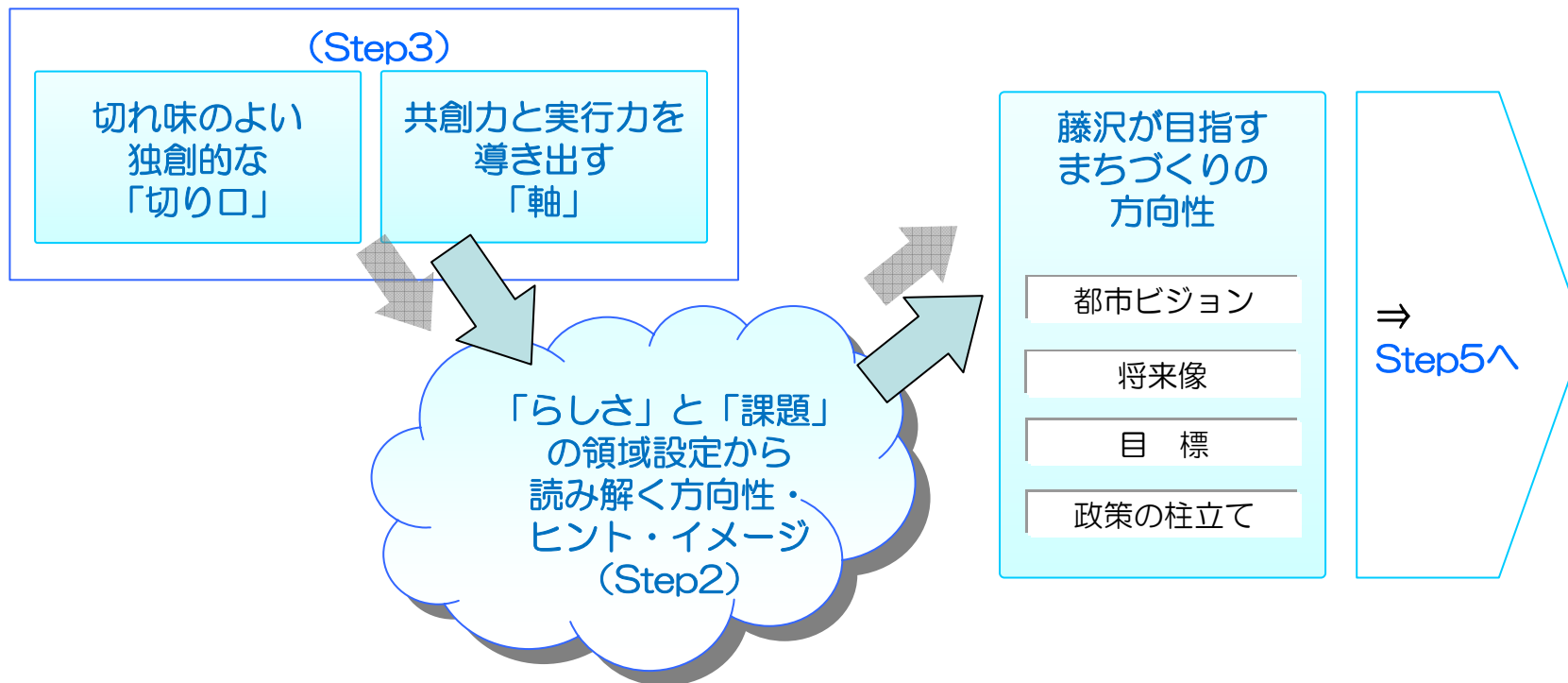
[Step3]

- ▶ 17領域ごとに分類した「収束した素材」について、市民の目線である①藤沢の30年後の未来や藤沢のもつアイデンティティとオリジナリティなどから「切れ味」のよい、独創的な都市ビジョン・将来像等を描くための「切り口」を設定する。
- ▶ 17領域ごとに分類した「収束した素材」から、本市が目指すべき将来像やまちづくりの理念を策定するための目標化・施策の柱立ての方向性につながる「共創力」と「実行力」を導き出す「軸」を設定する。



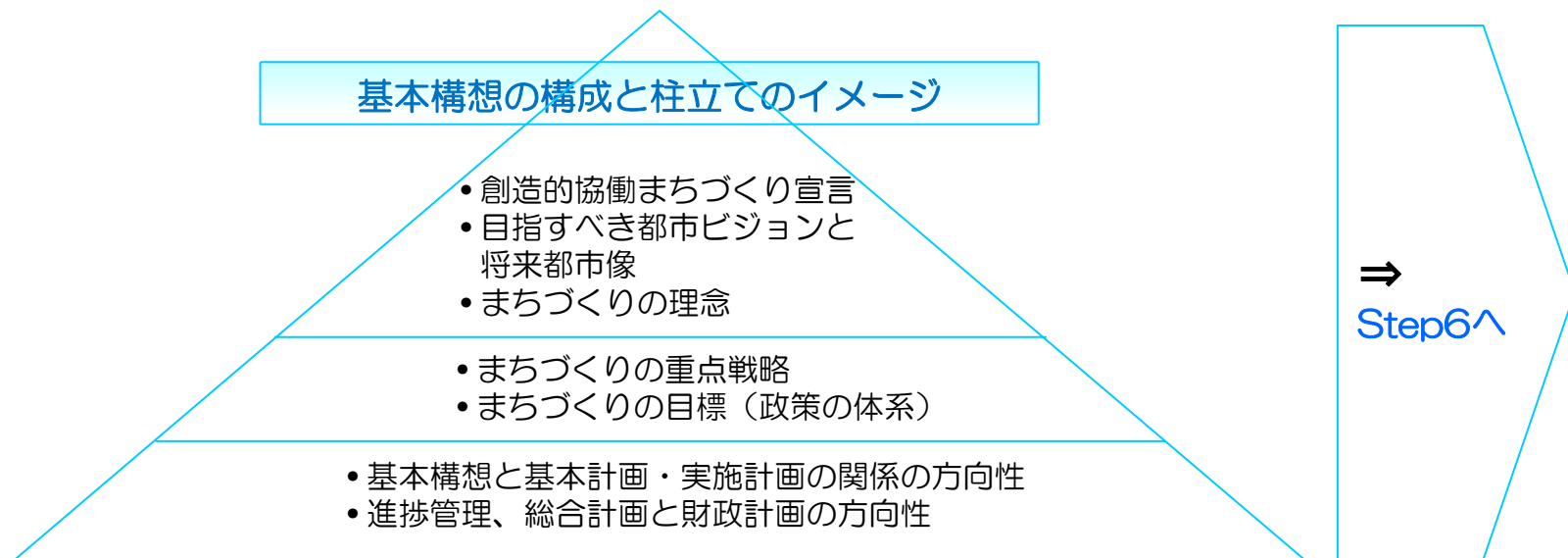
[Step4]

- ▶ 「らしさ」と「課題」抽出の領域設定と分類により「収束された素材」から、基本構想の方向性、ヒント、イメージを読み解き（Step2）、基本構想の「切り口」と「軸」（Step3）から基本構想の都市ビジョン・将来像や、目標化、政策の柱立ての方向性を導き、「藤沢が目指すまちづくりの方向性」を設定する。



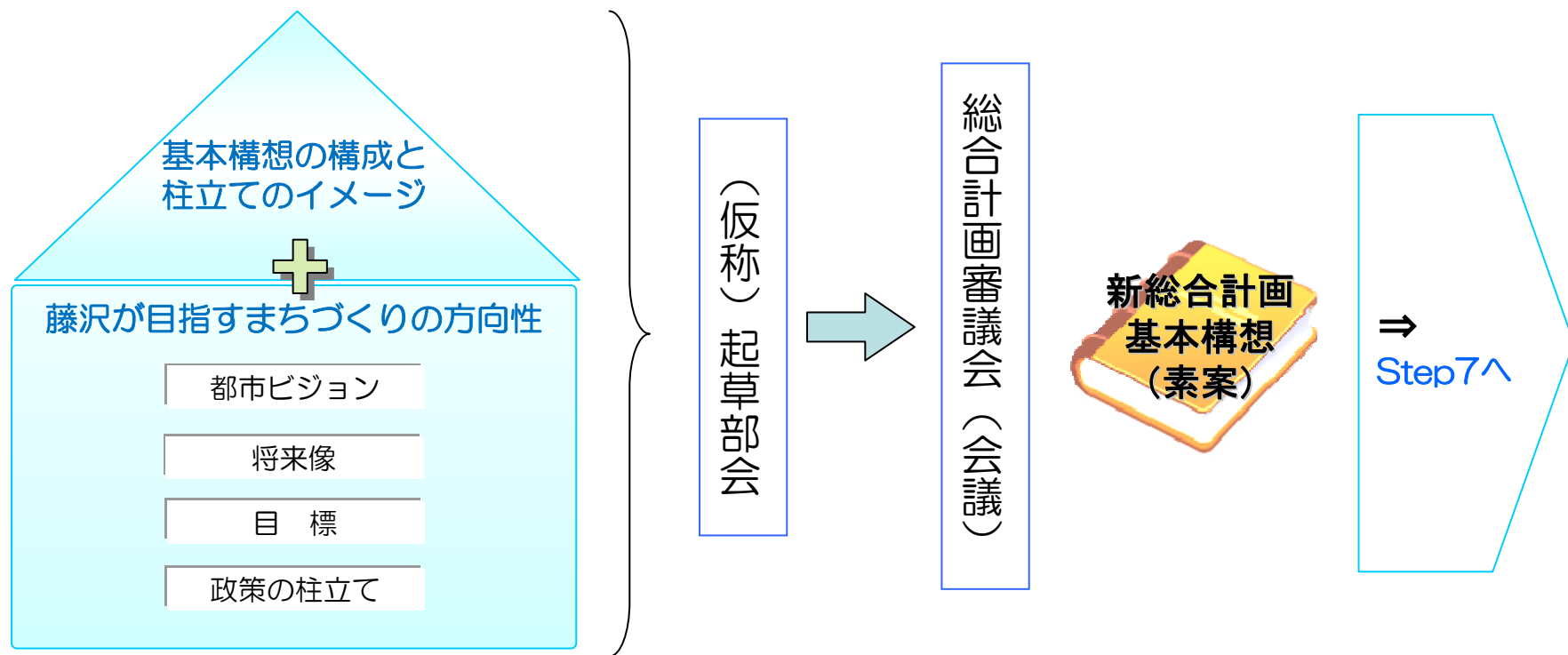
[Step5]

- 「一生住み続けたいまち 湘南藤沢」の実現を図るための、本市が目指すべき将来像やまちづくりの理念、基本目標や施策の体系、基本計画・実施計画の方向性などの「構成と柱立て」を検討します。
- 基本構想は、単なる行政計画ではなく、三層構造の仕組みによる“検討プロセス”や、地域主体のまちづくりの担い手である地域経営会議による“実践活動”を視野に、市民・NPO・企業・行政…が協働で、地域経営や市民主体のまちづくりを進めるための“ツール”として位置づける。
- 基本構想は、従来型の「都市像・基本理念・基本目標」の構成にこだわらず、藤沢の「創造的協働」の視点から、新しいスタイルを位置づける。



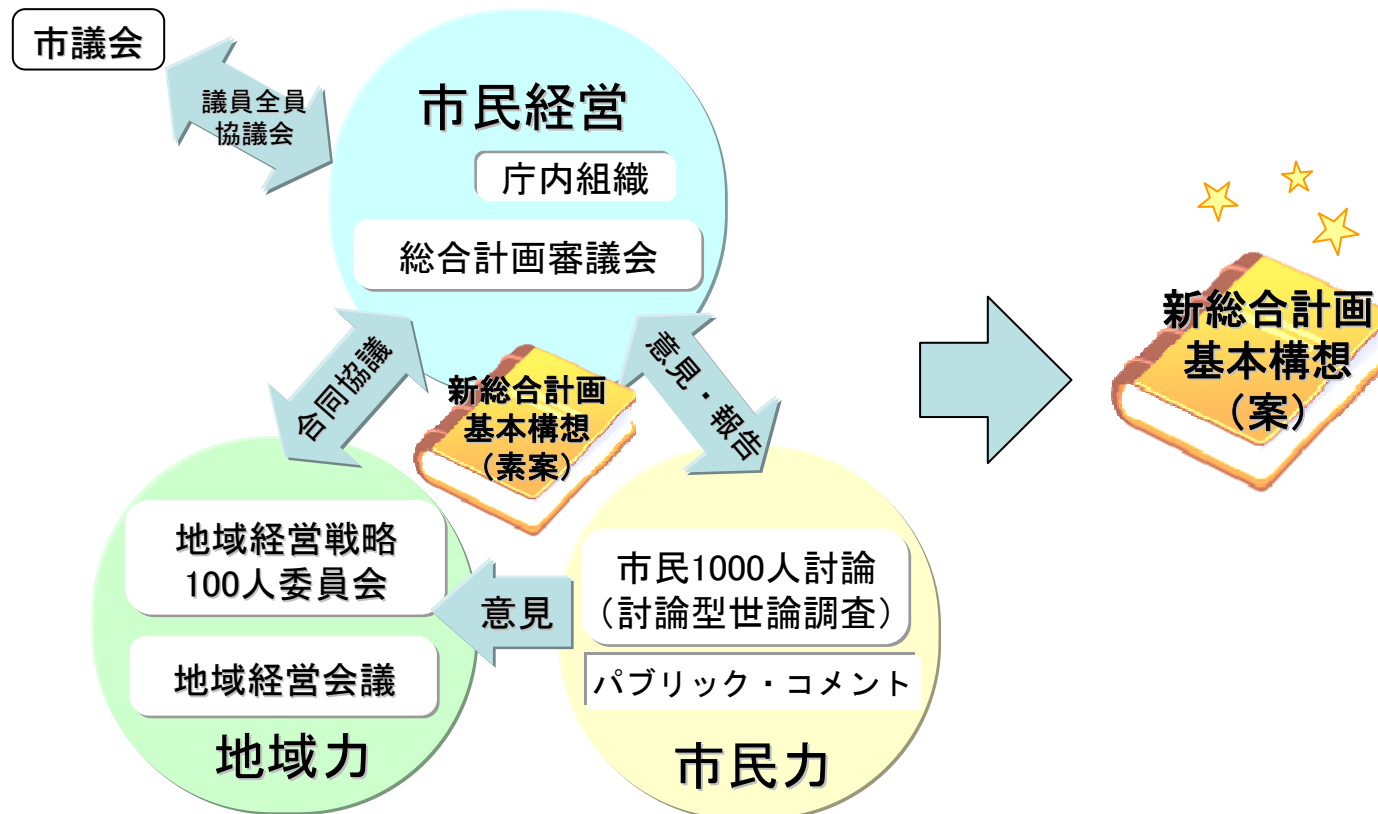
[Step6]

- ▶ 基本構想のまちづくりの方向性及び基本構想の「構成と柱立て」にもとづき、基本構想の起草を行う。
- ▶ 総合計画審議会に「（仮称）起草部会」を設置する。



[Step7]

- 起草による「基本構想（素案）」は、総合計画審議会と地域経営戦略100人委員会との合同協議、パブリック・コメント、藤沢市議会議員全員協議会、市民1000人討論などを通じて、意見・提案をいただき、「基本構想（案）」へと磨きあげる。

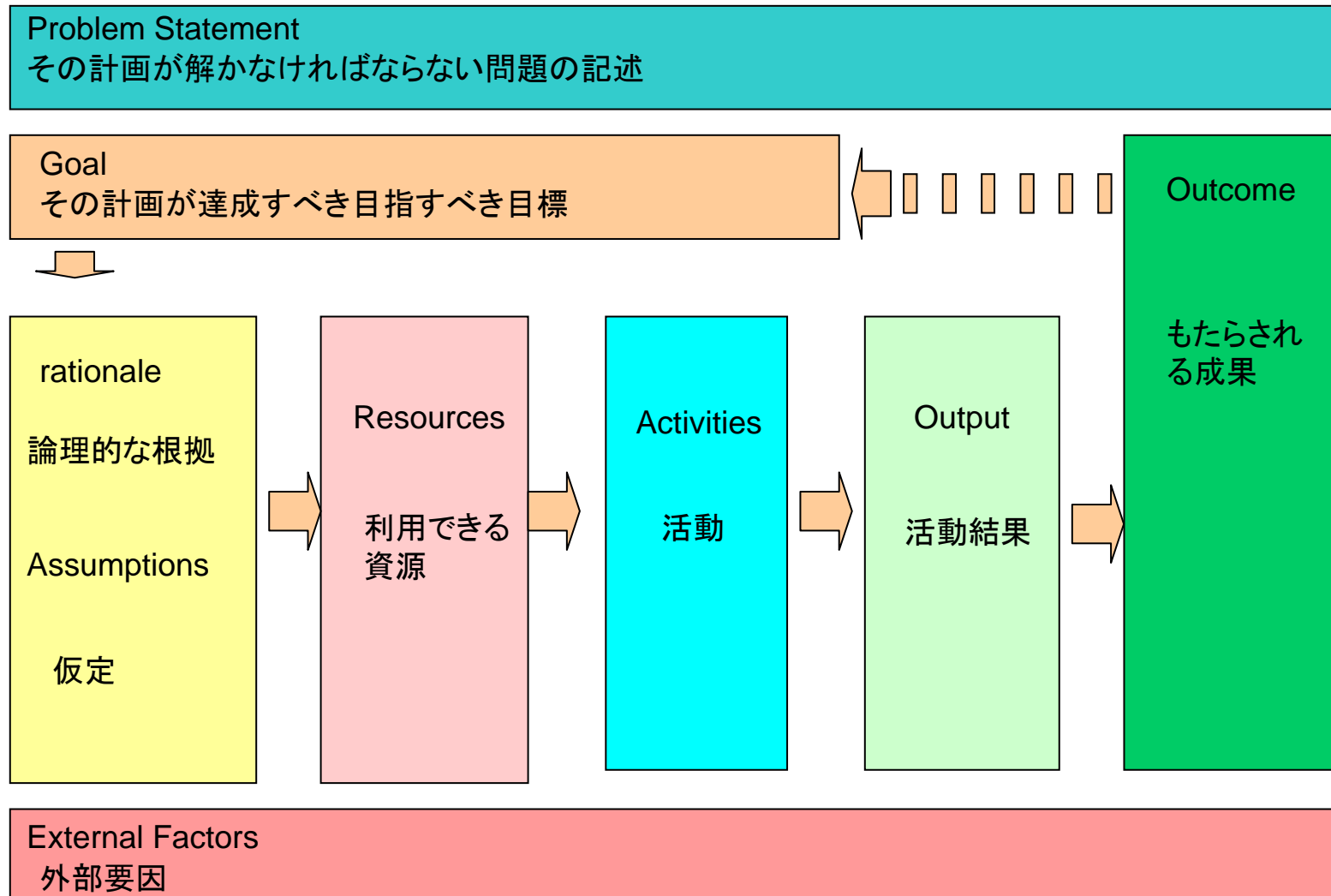


Ⅲ 議論整理のツール

- 3-1 問題からの発想
（ Logic Model Components ）
— p 18
- 3-2 プロジェクト：問題から計画へ
— p 19
- 3-3 参考：問題の分析
— p 21
- 3-4 マネジメント：計画から経営へ
（地域経営による高い成果（アウトカム）の実現）
— p 22



Johns Hopkins, Bloomberg School of Public Health



Problem Statement 問題設定

Nonprofits often have negative perceptions about evaluation, as something that is "done to them". Negative perceptions cause nonprofits to avoid evaluation, instead of reaping its benefits.

Goal 目標

To create a sample logic model, so that other nonprofits may gain confidence in creating their own logic models.

Logic Model Diagram:
Logic Model for Sample Program A

Long-Term Outcomes 長期的成果

Better planning leads to more effective programs and a stronger nonprofit sector.

Rationales 根拠

People are more likely to try something new if they can see an example first.

Assumptions 仮定

Even a non-specific logic model, that does not fall into a programmatic area, could be helpful from a heuristic standpoint.

Resources 資源

Human Resources:
One Point K administrator.

One computer with internet connection.

two to four hours.

Activity Groups 活動 Outputs 結果

Build a logic model.

One completed logic model
One printed Presentation View

Intermediate-Term Outcomes 中期の成果

Point K visitors build logic models for their own programs.

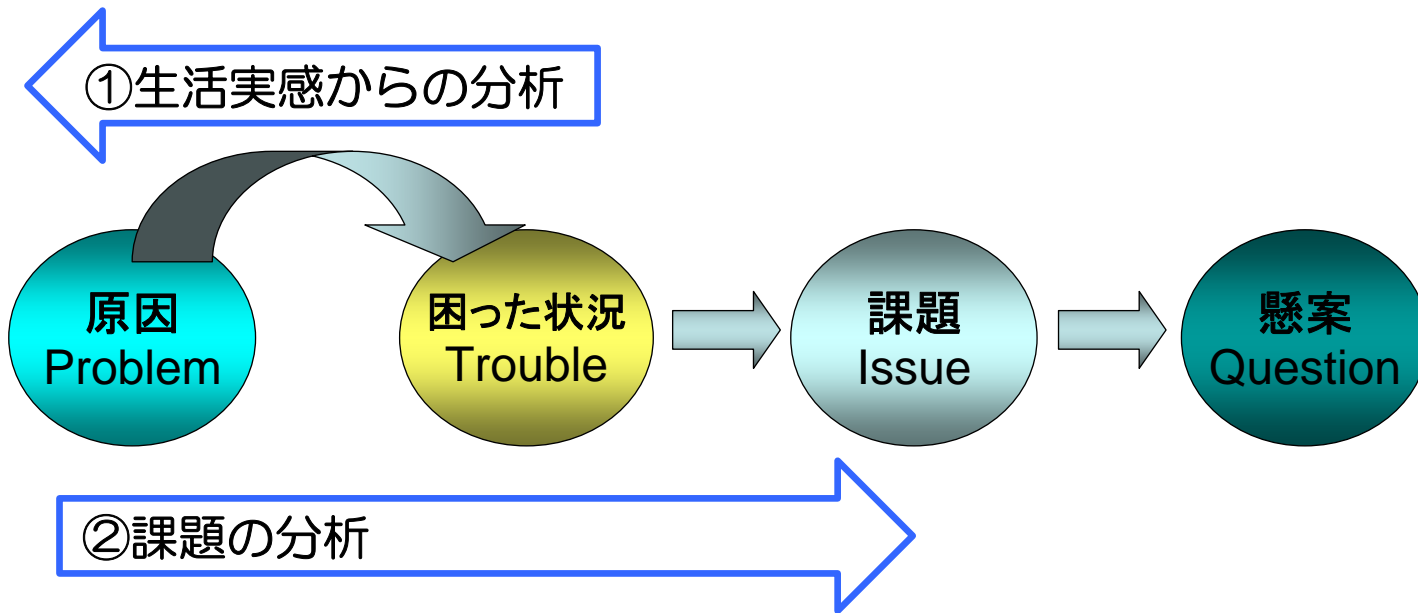
Short-Term Outcomes 短期の成果

Point K visitors have improved knowledge of logic models.

Sone, Long-term City Planning, 2009

<問題とは何か>

Trouble	困っている「状況」
Problem	状況が発生している「原因」
Issue	現状の何を変革すべきかという「課題」
Question	課題を解決するための具体的な「懸案」



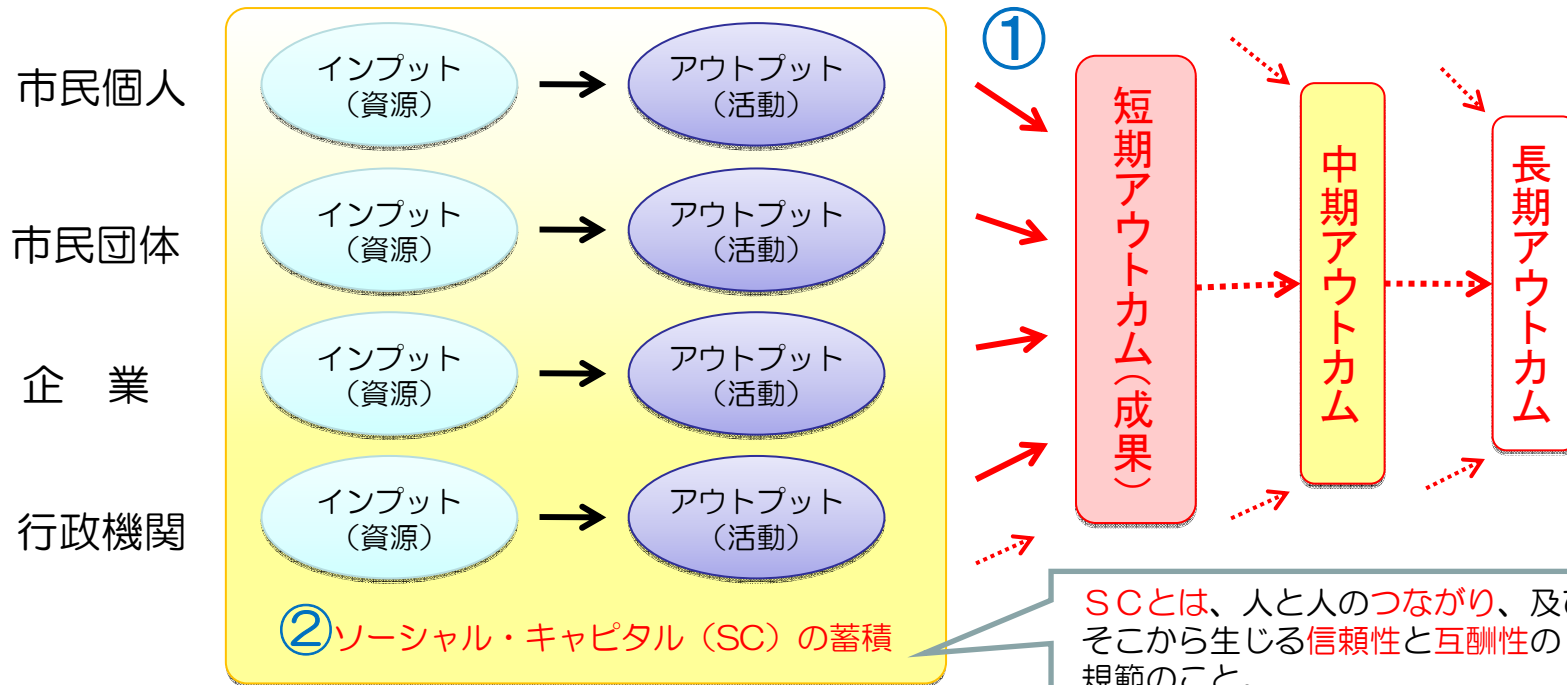
3-4 マネジメント：計画から経営へ

(地域経営による生産性の高い成果（アウトカム）の実現)

① 高いアウトカム（成果）を実現するには…

アウトカムは多様な主体による「アウトプット提供」の相乗効果によって実現

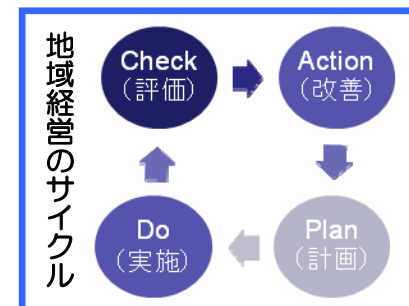
→ 効果的な自発的協力関係と役割分担による生産性の向上が必要



② アウトカムを実現する生産性を上げるには…

SCが蓄積することで 自発的協力関係 と 効果的な役割分担 を
生み出しやすくなる = 高いアウトカムを実現する生産性が上がる

= 地域経営の力



地域経営戦略100人委員会（Team238）活動計画

～ 基本計画編 ～

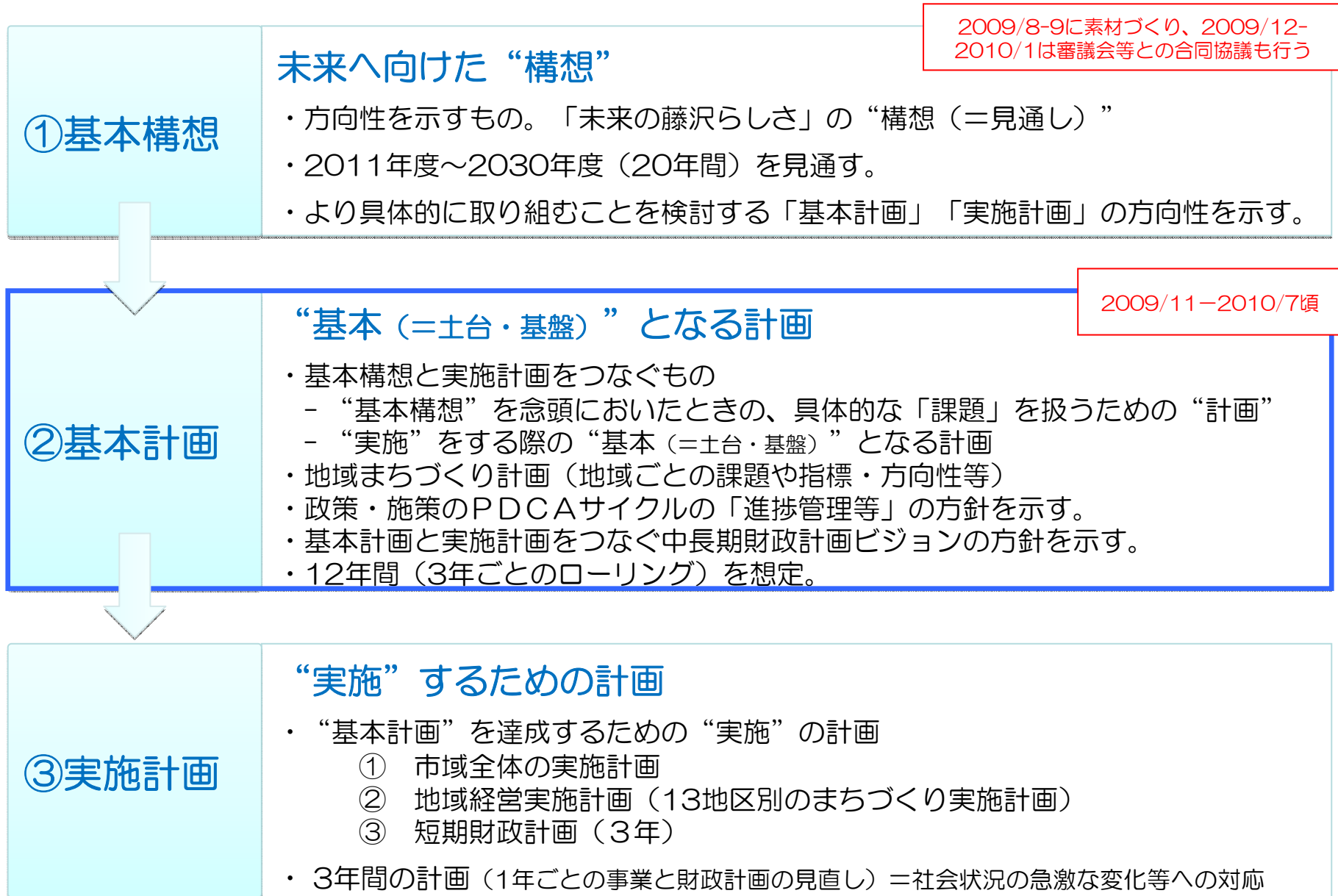
- | | | |
|----------------------|----------------------|--------|
| 1. 基本計画とは | | — P.02 |
| 2. 基本計画づくりの流れ【集める】 | “気づき”の収集と深掘り（11月-2月） | — P.05 |
| 3. 基本計画づくりの流れ【読み解く】 | 「ふじさわ未来課題」の設定（2月-3月） | — P.12 |
| 4. 基本計画づくりの流れ【メリハリ】 | 「注目・ふじさわ未来課題」の調査（4月） | — P.16 |
| 5. 基本計画づくりの流れ【指標づくり】 | 「まちづくり指標」の設定（5-6月） | — P.20 |
| 6. 基本計画づくりの流れ【まとめる】 | 「地域まちづくり計画」として記述（7月） | — P.24 |

平成21年11月1日



1. 基本計画とは

- 1-1. 新総合計画の構造 — P.03
- 1-2. 基本計画の役割 — P.04



基本計画の役割：“基本（＝土台・基盤）”となる計画

- ・基本構想と実施計画をつなぐもの
 - “基本構想”を念頭においたときの、具体的な「課題」を扱うための“計画”
 - “実施”をする際の“基本（＝土台・基盤）”となる計画
- ・地域まちづくり計画（地域ごとの課題や指標・方向性等）
- ・政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理等」の方針を示す。
- ・基本計画と実施計画をつなぐ中長期財政計画ビジョンの方針を示す。
- ・12年間（3年ごとのローリング）を想定。

ポイント

- ★ 未来像を実現するための「**課題（＝改善すること&伸ばすこと）**」を様々な立場から徹底的に**洗い出す**
- ★ 政策・施策の**重点化**と目標の設定のために**メリハリ**ある形で整理する
- ★ 「課題」の**現状を評価できるようにする（＝指標づくりを行う）**
 - ⇒ 計画（Plan）は、実施（Do）→評価（Check）→改善（Action）→計画→…の持続的なサイクルにつなげるもの。基本計画の段階から評価と改善ができるように設計する。
 - ⇒ 「指標づくり」＝**共通の目標**を持つことで、様々な主体が**地域協働で評価**できるようにする。
- ★ 各地域の特徴を反映した「**地域まちづくり計画**」を位置づける
 - ⇒ 地域ごとにも「課題」や「指標」の特徴を検討する
- ★ 政策・施策のPDCAサイクルの「進捗管理」システムを位置づける。
- ★ 基本計画と実施計画の関連性をはかるための、中長期財政計画ビジョンを位置づける。

2. 基本計画づくりの流れ【集める】

～“気づき”の収集と深掘り（11月-2月）～

- 2-1. ① “気づき”の収集 — P.06
- 2-2. ② “気づき”の深掘り — P.07

◆ 目的

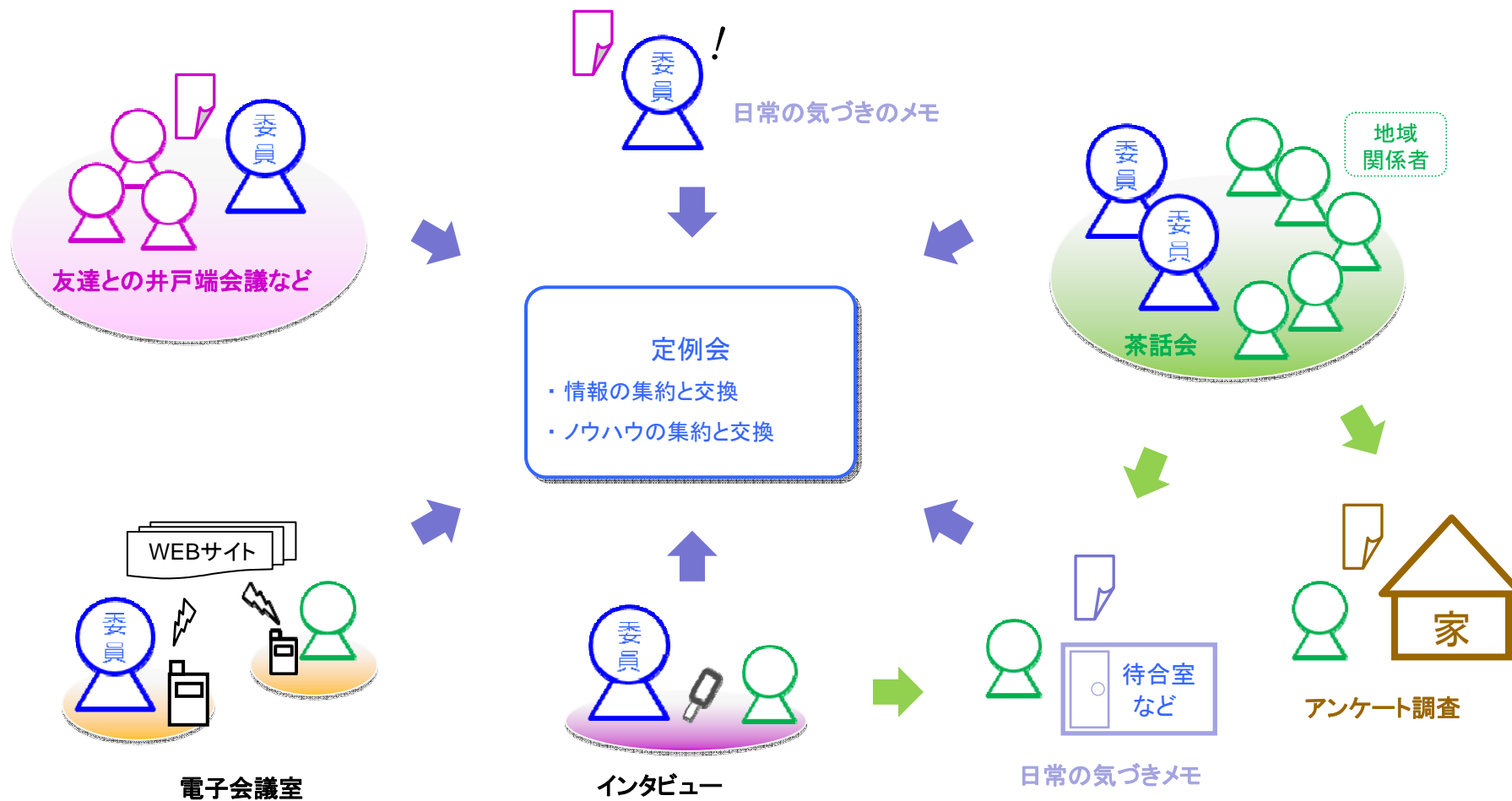
“気づき（＝生活実感や活動実感）”について、藤沢市民の皆さんの
実感を丹念に洗い出し、実態を捉える

◆ 方法

地区ごと・活動領域ごとに、誰に・どのようにして“気づき”を聞くか
を検討し、実施する。

例)

- ・ 共通の調査票を町内会などで配布して書いてもらう
- ・ 書いてもらいたい方を検討して、お願いをする
- ・ これまでに行ってきた調査などを再度確認して、調査票に書き出す
- ・ 市民委員が日常的に持っていて、気づいたとき、対話したときに書き留めておく
- ・ 似たような経験を持っている人にあつまってもらい、調査票の内容に従って、話し合ってもらう
（記録を簡条書きで作成）
- ・ ポストイットを使って話しあう日を設定して、集まってもらう など



◆ 目的

委員自身による“気づき”や、地区で調べたことなどを深掘りし、実態をより深く理解する、解きほぐす。

※ すべての“気づき”に対してではなく、いくつかを抽出して実施。

◆ 方法

地区ごと・活動領域ごとに、誰とどのようにして深掘りをするかを検討し、実施する。

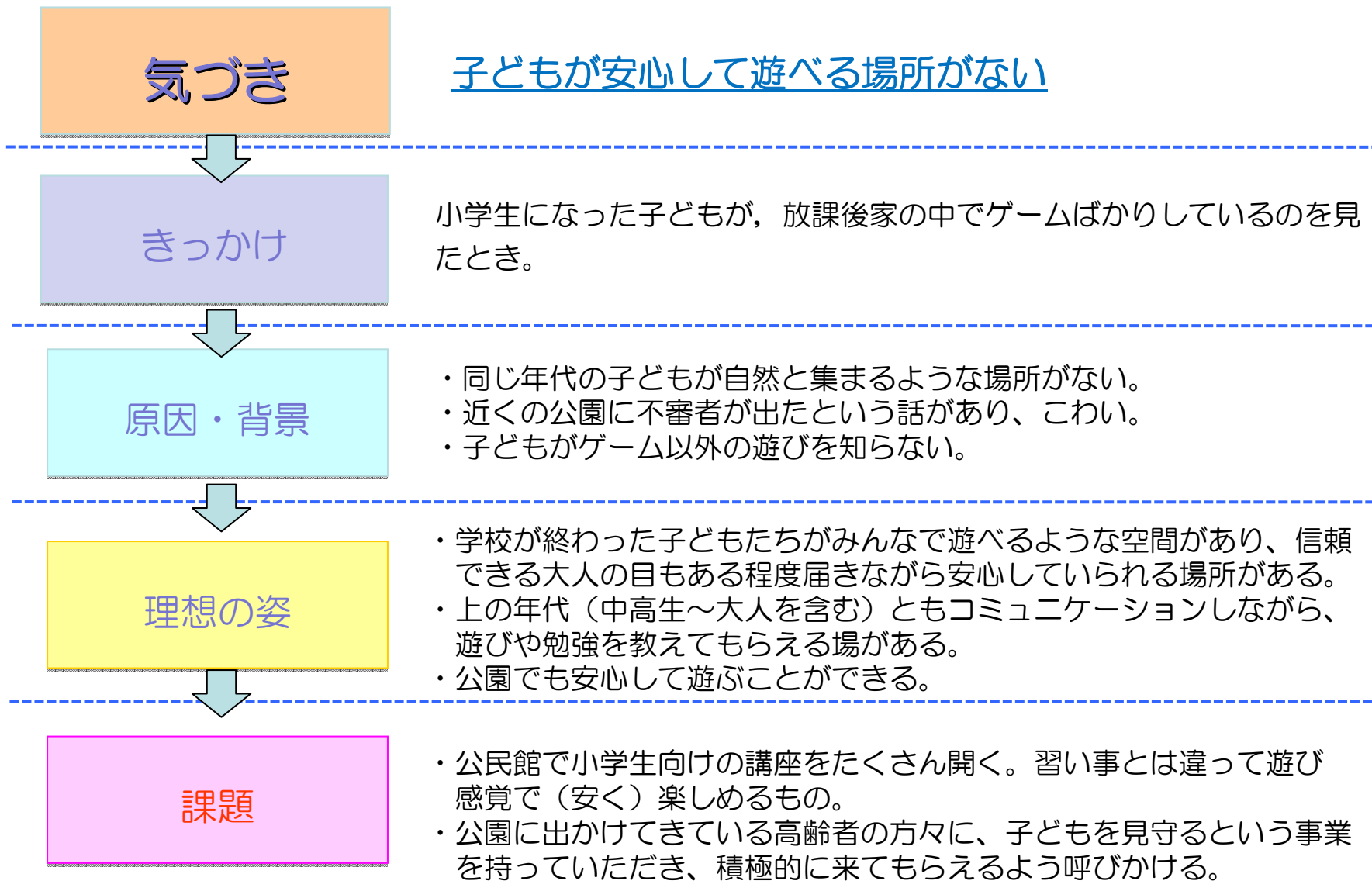
例)

- ・ 「気づきの深掘りシート」をもって、様々な方と話し合っ、書き出す
- ・ 委員が日常で気になったこと・聞いたことを深掘りする
- ・ 地区や領域で集まり、話し合いながら深掘りシートを作成する
- ・ 深掘りをしていただくと、示唆が得られそうな方をお願いして、何枚か記述してもらう など

◆ 課題とは？

- ・ 課題とは、将来像や目標に向かう際に、追求・行動すべきことです。
- ・ それは、①現状をカイゼンするもの、②現状の良さ・魅力を伸ばすものの2種類あります。
- ・ 現状（気づき）から、原因や背景を分析（深掘り）し、課題を導き出すことを丹念に行っておくことで、根拠だった計画策定や、活動・事業の実施を円滑に進めることができます。





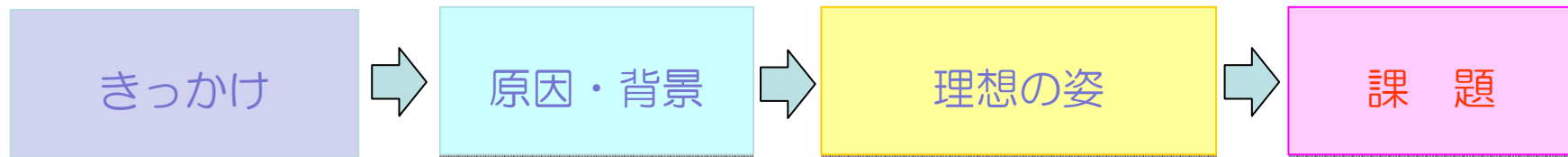
気づき

まず“気づき”を設定して...

- ① まず、一人ひとりでふせんに思ったことを書き記します。
- ② 発表をしながら模造紙に貼ってください。〔ほかの方はコメントせず、聞いてください。〕
- ③ 似たものをグループにして、ひとつにまとめてください。〔グループは複数できて良い。〕

これを「きっかけ」から順番に行います。

今回は時間も限られていますので、「原因・背景」「理想の姿」「課題」の段階では、それぞれ、前の段階のものから1つ選んで検討してください。



3. 基本計画づくりの流れ【読み解く】 ～ 「ふじさわ未来課題」の設定（2月-3月）～

3-1. ③“気づき”の整理・分析・集約

— P.09

◆ 目的

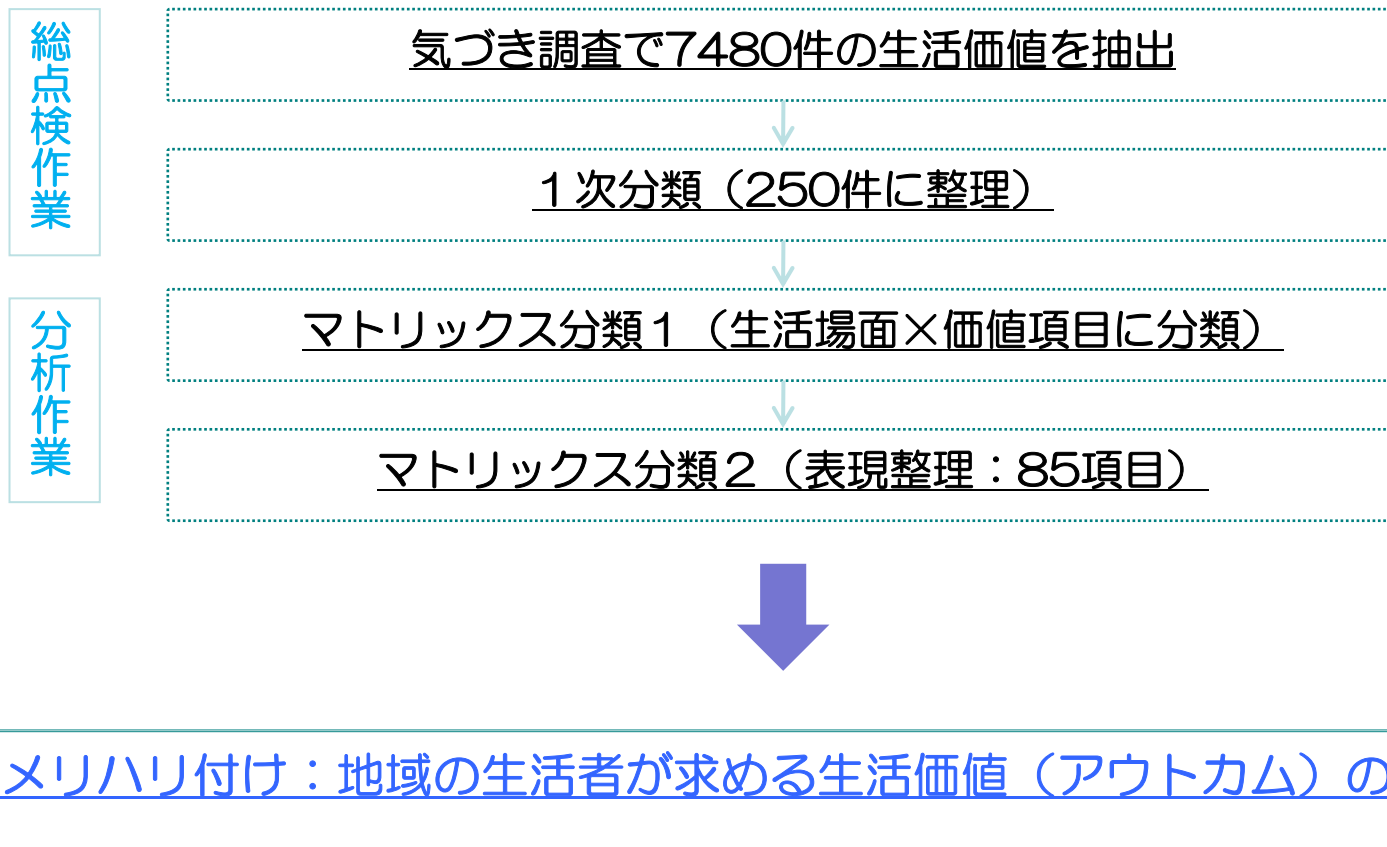
幅広く丹念に集めた“気づき”や、深掘りした“気づき”について、整理・分析をし、共有しやすいように集約する

※ 課題とは「カイゼンすること」と「良さを伸ばすこと」の両方の意味をもつ。
地域として実現したいこと(アウトカム)である。

◆ 方法

1. 類似発言・共通発言の集約
2. “気づき”の論理構造（ロジック）を検討した上で、「ふじさわ未来課題」として集約
3. それぞれの「課題」がどういった発言と結びついているのかを残して集約
4. 「マス目（マトリックス）」に整理

市民委員と慶應義塾大学が協働で各種の調査活動・分析活動を推進



(参考) 青森市 生活者が指摘する「まちなかの“生活価値”」85項目 15

	安心だ	楽しい	お手頃・気軽・楽ちんだ	つながり	ためになる・役に立つ
買う	<ul style="list-style-type: none"> 1)思い立ったとき買い物に出かけやすい 2)安全で質のよいものを選べる・買える 3)ギフトも、お総菜も、お土産も買える 4)通いなれたまち、なじみのお店で買える 	<ul style="list-style-type: none"> 1)いろいろなお店や品物と出会える 2)新しい流行、ファッションがわかる 3)なじみのお店で楽しく買い物できる 	<ul style="list-style-type: none"> 1)「ついで買い」がしやすい(散歩しながらなど) 2)「とっさ買い」がしやすい(夕食前後も、会合の前後、仕事帰りなど) 3)「ちょっと買い」や「出来合いもの買い」がしやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 1)なじみのお店がある・融通が利く 2)おまけやスタンプ、いろいろなサービスをしてもらえる 3)お店で会話を楽しみ時間をつぶせる 4)子どもといっしょに買い物ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 1)よいもの、新しいもの、珍しいものなどが買える 2)品物やサービスに詳しくなれる 3)新しい店、変わった店、きれいな店が見つかる
食べる	<ul style="list-style-type: none"> 5)一人でも大勢でも子連れでも食事ができる 6)地域の豊かな山海の幸を食べられる 7)安全で質の良い食材を食べられる 	<ul style="list-style-type: none"> 4)食べ歩きを楽しめる 5)友だちや家族とくつろいで食事を楽しめる 6)おしゃれな会食が楽しめる 7)和洋中いろいろな食事を楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> 4)出前や会食、屋台やファストフード、いろいろな形で食事できる 5)料理や値段の幅が広く、お手頃なものがある 6)季節感やおしゃれさ、気分に合わせて食事ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 5)なじみの店で食事ができる 6)友だちや家族といっしょにくつろいで食事ができる 7)郷土食や地域の食材を使った食事ができる 	<ul style="list-style-type: none"> 4)レストランから手軽な屋台まで、目的や時間にあわせて食事ができる 5)高級・B級、予算にあわせていろいろなメニューを楽しめる 6)にぎやか、しみり、おしゃれ、気分にあわせて食事ができる
遊ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 8)子どもが元気に遊べる場所があること 9)夏でも冬でも、朝でも夜でも遊べる 10)屋内でも屋外でも遊べる 11)まちの緑や海を楽しみながら遊べる 	<ul style="list-style-type: none"> 8)いろいろな楽しみ、遊びができる(映画もネットカフェもつりもヨットも) 9)いつでも、四季折々に楽しみがある(ねぶたも雪祭りも) 10)いろいろな友人と趣味や遊びを楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> 7)ふだん、お気軽に時間をつぶしてられる 8)お祭りやイベントに足を運びやすい 9)一人でも、友だちや家族といっしょでも楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> 8)趣味や同好の仲間を作りやすい 9)身近な地域の祭りやイベントがある 10)いろいろな世代の人が集まってくる 11)子どもたちの遊ぶ声や姿がある 	<ul style="list-style-type: none"> 7)趣味を始めたり同好の集いを開きやすい 8)ねぶたなどを毎日楽しみ自慢できる 9)映画やイベント・コンサートを楽しめる
学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> 12)先生や親の目がゆき届いている 13)まちの人が子どもに気軽に声をかけてくれる 14)教育・文化の施設に行き来しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 11)図書館で静かに知的に楽しめる 12)同じ目的で学ぶ人と出会える 13)青森をよく知る機会が多い 	<ul style="list-style-type: none"> 10)図書館など文化施設や教養講座に行きやすい 11)気軽に読書してられる(図書館も喫茶店も) 12)遊んだり楽しみながら学びやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 12)子ども大人もいっしょに学んだりお稽古をしやすい 13)ふだんからまちの文化に触れられる 14)図書館や学校が近く集まりやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 10)学校、進学塾、図書館など学ぶ環境が充実している 11)趣味や専門の勉強を続けやすい 12)流行やファッションを知りやすい 13)歴史や文化、アートに親しみやすい
住む	<ul style="list-style-type: none"> 15)ご近所の底力がある(商店街や町会) 16)病院や働く場所が近くで安心できる 17)冬の暮らしの負担(雪かき)が小さい 18)何かのとき近くの誰かに相談しやすい 	<ul style="list-style-type: none"> 14)青森らしい祭りやイベントが近くにある 15)身近な風景に青森らしさがある 16)子どもたちや若者とふれあえる 17)冬も歩きやすく、暮らしを楽しめる 	<ul style="list-style-type: none"> 13)バス・電車にも、自転車にも乗りやすい 14)歩く範囲でたいがいの用が足せる 15)近くに病院や働く場所がある 16)天候や季節をあまり気にしなくていい 	<ul style="list-style-type: none"> 15)まちの人が優しく、地域を好きな人が多い 16)いろいろな世代や地域の人と知りあい交流できる 17)他人とほどよいふれあいができる 	<ul style="list-style-type: none"> 14)新しい発見や驚きがある 15)いろいろな気分転換ができる 16)自然、季節を感じながら暮らせる 17)住みたい、住み続けたいと思える

4. 基本計画づくりの流れ【メリハリ】

～ 「注目・ふじさわ未来課題」の調査（4月）～

4-1. ④ 「ふじさわ未来課題」のメリハリ調査（市民アンケート） — P.14

◆目的

アンケート調査を通じて、「ふじさわ未来課題」を重み付けするすべての「課題」について、同時に対応するのは困難であるため、まず注目すべき「課題」を抽出する

◆方法

■調査内容

市民や実践活動を行っている方などに配布するアンケート調査を通じて、各「課題」についての「実現度（または、満足度）」と「重視度（大切さ）」を把握する

■対象者

市民全般：3000名程度（無作為抽出。13地区ごと・世代ごとなど）

実践活動に携わっている方：100人委員会・地域経営会議・市役所で推薦・依頼
地域経営会議の関係者などにも依頼

市役所職員：藤沢市役所で実務に携わっている観点での回答を依頼

■分析方法

「実現度」と「重視度」の2つの数字の傾向から、各課題を重み付けする
13地区ごとに「注目課題」を分析・全市的な「注目課題」の傾向を確認
対象者による傾向の違いを確認

【定義】

『魅力度』 = 「満足（回答選択肢の“やや満足”と“満足”の和）」×重要選択率

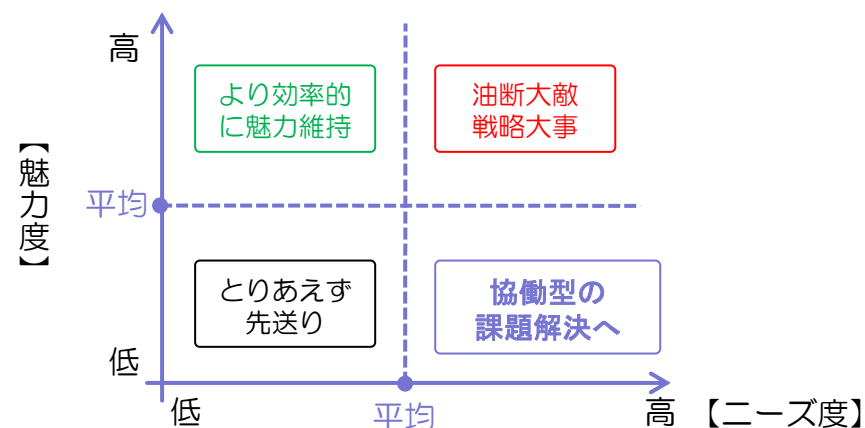
『ニーズ度』 = 「不満（回答選択肢の“やや不満”と“不満”の和）」×重要選択率

【分析対象】

- A) 全体 … まちなか居住誘導エリア内の住民
- B) 仕事層 … 50代以下で1~2人暮らし
- C) 子育て層 … 20代~40代で3人以上暮らし
- D) 高齢層 … 60代以上
- E) 既存暮らし方層 … 従来のライフスタイルの住民
- F) 新暮らし方層 … マンション住まいの新しい暮らし方の住民

【抽出方法】

生活価値の各項目の魅力度・ニーズ度で分類（安心、楽しい…）ごとの平均以上の項目を抽出



(参考) 重みづけされた生活価値 (A. 全体、全42項目)

	安心だ	楽しい	お手頃・気軽・楽ちんだ	つながり	ためになる・役に立つ
買う	1)思い立ったとき買い物に出かけやすい	1)いろいろなお店や品物と出会える	1)「ついで買い」がしやすい(散歩しながらなど) 2)「とっさ買い」がしやすい(夕食前も後も、会合の前後、仕事帰りなど)	1)なじみのお店がある・融通が利く	1)よいもの、新しいもの、珍しいものなどが買える 2)品物やサービスに詳しくなれる
食べる	6)地域の豊かな山海の幸を食べられる 7)安全で質の良い食材を食べられる			5)なじみの店で食事ができる 6)友だちや家族といっしょにくるいで食事ができる 7)郷土食や地域の食材を使った食事ができる	4)レストランから手軽な屋台まで、目的や時間にあわせて食事ができる 5)高級・B級、予算にあわせていろいろなメニューを楽しめる 6)にぎやか、しんみり、おしゃれ、気分にあわせて食事ができる
遊ぶ	8)子どもが元気に遊べる場所があること	8)いろいろな楽しみ、遊びができる(映画もネットカフェもつりもヨットも) 9)いつでも、四季折々に楽しみがある(ねぶたも雪祭りも)	8)お祭りやイベントに足を運びやすい	9)身近な地域の祭りやイベントがある 11)子どもたちの遊ぶ声や姿がある	7)趣味を始めたり同好の集いを開きやすい 8)ねぶたなどを毎日楽しみ自慢できる 9)映画やイベント・コンサートを楽しめる
学ぶ	14)教育・文化の施設に行き来しやすい	11)図書館で静かに知的に楽しめる	10)図書館など文化施設や教養講座に行きやすい	14)図書館や学校が近くて集まりやすい	10)学校、進学塾、図書館など学ぶ環境が充実している
住む	16)病院や働く場所が近くて安心できる 17)冬の暮らしの負担(雪かき)が小さい	14)青森らしい祭りやイベントが近くである 15)身近な風景に青森らしさがある 17)冬も歩きやすく、暮らしを楽しめる	13)バス・電車にも、自転車にも乗りやすい 14)歩く範囲でたいがいの用が足せる 15)近くに病院や働く場所がある 16)天候や季節をあまり気にしなくていい	16)いろいろな世代や地域の人と知りあい交流できる 17)他人とほどよいふれあいができる	16)自然、季節を感じながら暮らせる 17)住みたい、住み続けたいと思える

※ 赤字・・・魅力度・ニーズ度が共に平均以上(17)、緑字・・・魅力度のみ平均以上(13)、青字・・・ニーズ度のみ平均以上(12) 第3回地域経営戦略100人委員会(2009/11/1)

5. 基本計画づくりの流れ【指標づくり】

～ 「まちづくり指標」の設定（5-6月）～

- 5-1. ⑤「まちづくり指標」の検討と設定 — P.18
- 5-2. ⑥「まちづくり指標」の現状値調査 — P.19
- 5-3. ⑦「めざそう値」「役割期待値」の調査 — P.20

◆ 目的

各「課題」を「指標」にすることで、課題の現状を評価できるようにする
協働で改善に取り組む指標として設定する

◆ 方法

検討ワークシートを用いて話し合う

※「② “気づき” の深掘り」「③ “気づき” の整理・分析・集約」で作成した
“気づき” の論理構造などを参考にすることで、検討が行いやすくなる

◆ 目的

「課題」を指標にした「まちづくり指標」の現状の値を確認することで、置かれている現状を把握する

◆ 方法

既存の統計データや、市民アンケート調査、新たなデータ収集等で指標の現状を把握する

◆ 目的

- ・ 藤沢市で活動している実感として、「まちづくり指標」の値がどこまで改善したら、藤沢市や各地区が良くなったといえると思うかを調査する。
- ・ その値を集約することで、関係者や実務家がどのように考えているかを、お互いに共有し、共通の目標として設定する。
- ・ 実際に改善するには、誰の役割が期待されると思うかについても調査し、共有する。

◆ 方法

■ 調査内容

- ・ 藤沢市で活動している実感から、「まちづくり指標」について数年後に実現して欲しい値（めざそう値）、誰が改善の役割を担っていると思うか（役割期待値）をお聞きする。
- ・ 「めざそう値」は、現状値の傾向などを参考に回答。
- ・ 「役割期待値」は、自助・共助・公助などの観点について、5段階で回答。加えて、具体的にどのような役割が期待されるかについて、記述してもらう。

■ 対象者

- ・ 各「課題」に携わっている方
- ・ 100人委員会委員、地域経営会議の関係者
- ・ 市役所職員

■ 分析方法

- ・ めざそう値は、平均値（または中央値）を算出。
- ・ 13地区ごとのデータ、全市のデータ、対象者による違いなどを併記して情報提供をする。

6. 基本計画づくりの流れ【まとめる】

～ 「地域まちづくり計画」として記述（7月）～

6-1. ⑧「基本計画書」を記述

— P.22

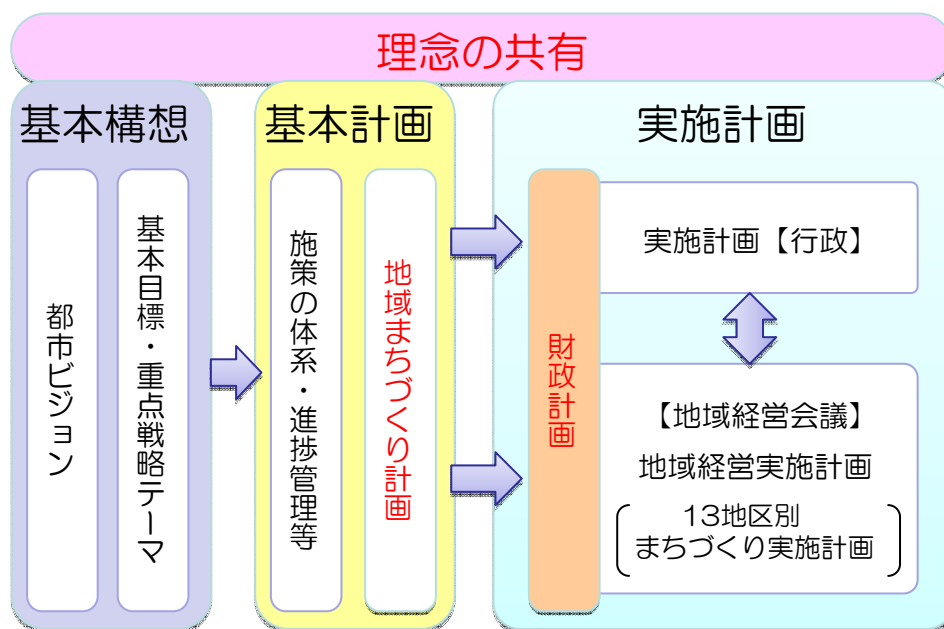
◆ 目的

(次の段階で) 実施計画を策定する際の基本情報として活用

◆ 方法

- ・ 「ふじさわ未来課題」「まちづくり指標」などの現状や傾向について解説。
- ・ 各地区ごとの考え方などを整理し、実施計画（13地区別まちづくり実施計画）に繋げる

「ふじさわ未来課題」の実現を目指して、具体的に“実施”をするための計画を策定する



- (1) 市域全体の実施計画
- (2) 地域経営実施計画
(13地区別のまちづくり実施計画)
- (3) 短期財政計画 (3年)



何を実施すると良いかを、地区ごとに戦略的に検討する。その結果は「まちづくり指標」で評価しながら、進めていく

①“気づき”の収集の準備活動

- 目的

- “**気づき(=生活実感&活動実感)**”について、藤沢市民の皆さんの**実感を丹念に洗い出し、実態を捉える**
- 自信を持って「丹念に洗い出した!」と言えることを目指す!

- 次回までに

- **誰に・どのようにして、“気づき”を聞くかを検討**
 - 地域経営会議の関係者は、次回、各地区でどのように取り組むかを提案!(5分間の発表を予定)
 - 領域などでグループを編成・検討(日程が合う方)
 - 「**気づきシート**」の**作成・配布・回収**
 - 自分でも、幅広く書く。**次回に持参をして共有**
 - いろいろな人に話を聞いてみる。
(しっかりと聞いた方が良い方に話を聞くときは「深掘りシート」も利用しましょう)
 - 徹底的に集めること、作成することに挑戦しましょう!
- ※ 気づきシートは1月末まで集めます。

第3回地域経営戦略100人委員会(2009/11/1)

②“気づき”の深掘り

- 目的

- 委員自身による“気づき”や、地区で調べたことなどを深掘りし、**実態をより深く理解する、解きほぐす。**

- 次回は?

- 「**深掘りシート**」を、誰と深掘りするかを検討する予定。
(次回を想定して、考えておきましょう)
- 先行して深掘りを推進をしてもOKです!

第3回地域経営戦略100人委員会(2009/11/1)

--	--

気づきの深掘りシート

このシートは、それぞれの地区や活動領域で実感した“気づき”を、掘り下げて分析していくものです。この内容を参考に「ふじさわ未来課題（カイゼン&伸ばすこと）」や、そこに向けた計画を検討・実施していきます！

1【気づき】“気づき”の内容を簡単にお書きください。（1つの課題に1枚のシートを使用してください）

地区や活動領域での“気づき”（良いこと・心地よい体験、生活/活動していて気になったこと、魅力・自慢…）	あてはまる方に○	
	いつも思う	ときどき思う

2【きっかけ】その“気づき”は、いつから、また、どのようなことがきっかけで出されたと考えられますか？

3【原因・背景】（2を参考に）そのことは、なぜ起きていると考えられますか？何が影響していると考えられますか？

4【理想の姿】そのことについて、30年後には、どのような状態になっていることが望ましいですか？

5【課題】（4の実現には）誰が何をすること、何をどうすることが必要ですか？地域ではどのようなことができますか？

6【障壁】質問5で答えたことを、実際にしようとしたときに、障壁になりそうなことは何ですか？



(6) あなたの地区（テーマ）の魅力・自慢・伸ばすこと

(7) あなたの地区（テーマ）の課題・改善すること

(8) この先「藤沢市で暮らす中でこんなことができればなあ」と思うこと

(9) あなたのお名前